

| | | | | | |
|----------------|--|---------------|----------------------------|------|------|
| 科目名 | 観光と民俗 | 科目分類 | ■ 専門科目群 □ 総合科目群 | | |
| | | | 国際観光学科 | □ 必修 | ■ 選択 |
| | | | 学科 | □ 必修 | □ 選択 |
| 英文表記 | Tourism and Folklore | 開講年次 | □ 1年 □ 2年 ■ 3年 □ 4年 | | |
| | | 開講期間 | □ 前期 ■ 後期 □ 通年 □ 集中 | | |
| ふりがな | かまだ ゆきお | 実務家教員 担当科目 | | 修得単位 | 2単位 |
| 担当者名 | 鎌田 幸男 | 実施方法 | ■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用 | | |
| 授業のテーマ | 観光学とはどのような学問のことか考える。観光に対して民俗文化が果たす役割について考える。 | | | | |
| 到達目標 | 観光に対応するは民俗文化（伝統芸能や生活文化）とはどのようなものかを知る。観光客は民俗文化に何を求めているか考える。 | | | | |
| 授業概要 | 観光は現代社会の大きな潮流となっている。民俗は暮らしの文化であるが、世界文化遺産に登録されたものも少なくない。民俗文化はもともと観光の対象ではないが、近年観光客の関心は伝統的な民俗文化に向いている。本講義では、民俗文化と観光資源化との関り、観光客は民俗文化に関心を寄せる理由について考える。また観光学とはどのような学問か。そして地域おこしの課題にも触れる。 | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| 第1回 | オリエンテーション、講義の概要について説明する。 | | | | |
| 第2回 | 観光とはどのようなことか、語源と定義を考える。 | | | | |
| 第3回 | 観光の歴史的変遷の概要を知る。 | | | | |
| 第4回 | 観光の対象になる民俗とはどのようなものか、郷土学との関りから考える。 | | | | |
| 第5回 | 歴史観、民俗館、民族館、資料館、美術館、郷土館などの役割を考える。 | | | | |
| 第6回 | 世界文化遺産とユネスコの無形文化遺産について。 | | | | |
| 第7回 | 観光学について考える。 | | | | |
| 第8回 | 世界文化遺産とユネスコの無形文化遺産とは。 | | | | |
| 第9回 | 観光客はどうして伝統的な民俗に関心を持つのか。 | | | | |
| 第10回 | 民俗文化の観光化について (1) 積極的な考え方 (意見交換)。 | | | | |
| 第11回 | 民俗文化の観光化について (2) 消極的な考え方 (意見交換)。 | | | | |
| 第12回 | 観光と地域創生との関り。 | | | | |
| 第13回 | 観光は地域おこしの接続になるか。 | | | | |
| 第14回 | 21世紀の観光について考える。 | | | | |
| 第15回 | 観光と民俗文化と地域の課題 (まとめと振りかえり)。 | | | | |
| 第16回 | 定期試験 | | | | |
| 授業時間外の学習 | 歴史博物館や民俗館、郷土資料館などの見学をする。見聞を広める。 | | | | |
| 履修条件 受講のルール | 旅行したいところ、または見聞したいものを一つあげる。その理由を添えてまとめておく。詳細は授業時に説明する。 | | | | |
| テキスト | 適宜資料を配布する。無断欠席した学生には配布をしない。 | | | | |
| 参考文献・資料 | 講義のときに紹介する。 | | | | |
| 成績評価の方法 | ① 定期試験 (60%) ②小テスト (20%) ③レポート (20%) ①②③の総合評価とする。 | | | | |
| オフィスアワー | ① 月、金曜日 (11:30~12:50) ②これ以外の場合は事前連絡があると日程調整する。 | | | | |

| | |
|-------------------|---|
| 成績評価基準 | 秀 (100~90) 優 (89~80) 良 (79~70) 可 (69~60) 不可 (59以下)。 出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。 |
| 実務経験及び実務を活かした授業内容 | |
| 学生へのメッセージ | 関心のある地域や民俗行事見学の旅行プランを立ててみる。今後役に立つと思われる。 |